



「シチダンカ」の挿し木実習

第4回テーマ： 六甲山のアジサイ

講演内容

- 1：六甲山で発見されたシチダンカ
・シーボルトの記した「日本植物誌」で紹介された幻の花「シチダンカ」
- 2：六甲山のアジサイあれこれ
・六甲山はアジサイの宝庫
・アジサイの栽培に適した六甲の土壌
- 3：シチダンカの挿し木をプレゼント

実施日：平成15年7月19日（土）
午後1時～4時

場 所：六甲山自然保護センター内
レクチャールーム



よねむら くになり
講師：米村 邦稔さん

プロフィール

昭和4年、丹波篠山町生まれ。昭和29年、西宮市公立小学校教諭。昭和44年から8年間、タキロン保養所管理人を勤めた後、岩谷産業山荘の管理人。六甲山のアジサイを育てる会会長。兵庫県神戸地域ビジョン委員。

みごとなアジサイの中、当日参加者も多数

「あと数日で梅雨明け？」と気象庁の声が聞こえる中、正午を少し過ぎた時自然保護センター前のベンチに腰を掛けていました。するとセグロセキレイが姿を現し又ケーブル山頂付近でもコゲラ、シジュウガラの声も聞こえていました。市民の森、六甲山とさえづつているようでした。

さて、本日の市民セミナー参加者が楽しみに待っていました「六甲山のアジサイ」の話が始まります。

六甲山がアジサイでいっぱい

六甲山に暮らして33年の米村さんが、保養所のゴミ置場付近にアジサイを植えられました。ゴミ置場の周りは青々と育ったアジサイがその場を飾りつくしました。

昭和50年「花と市民の協定」条例第1号として5年間で2万本のアジサイを植えられ、まさにアジサイづくしに花が咲きました。

又その昔、氷が作られていたツゲ池は三分の一が歩道になり信号機も設置されました。



講演に聞き入る参加者
(左：尾崎さん)

そのツゲ池前に「アジサイ園」を作られ今では各種のアジサイを楽しむ事ができます。と淡々と話されている内に、六甲山のアジサイの歴史に全員が入門していました。

アジサイについて博識になった

アジサイの殆どは鑑賞用とされていますが、栽培されているものは日本原産種でした。アジサイの本種は15種～16種で、園芸種は500種～1000種にも至ります。六甲山地は夏でも25℃～30℃までの気温で霧が多く適度な湿度等、アジサイの育つ条件に適しているそうです。六甲山の酸性地ではブルーのアジサイが今年も見事に咲いていました。(中略)

- ・アジサイの家系図って何？
- ・アジサイって何色？
- ・米村美穂さんの観察記録
- ・挿し木実習など



アジサイの観察記録の紹介

ああっ…と言う間に

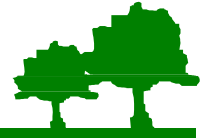
米村さんのアジサイに於ける熱弁は参加者一同、納得と満足に心打たれ、帰り道では、おそらく来た時以上に「六甲山のアジサイ」に愛情を持って見守って戴ける事間違いなしといった所で会を終りました。

(※尾崎さんにレポートを提供して頂きました。)

主催：六甲山自然保護センターを活用する会
後援：兵庫県神戸県民局
兵庫県立人と自然の博物館



テーマ:六甲山のアジサイ



第4回市民セミナーの流れ

市民セミナー

1. 講演準備: 12:50~13:05
 2. あいさつ: 13:05~13:15
 3. 講演: 13:15~16:05
- ※ 懇談会: 今回は挿し木の実習に替えました。

講演

- ①15年前のVTR鑑賞
- ②六甲山で発見されたシチダンカ
・シーボルトの記した「日本植物誌」で紹介された幻の花「シチダンカ」
- ③10年前のVTR鑑賞
- ④六甲山のアジサイあれこれ
・六甲山はアジサイの宝庫
・アジサイの栽培に適した六甲の土壌
・米村美穂さんの観察記録
- ⑤シチダンカの挿し木をプレゼント

講演のあいさつ(米村邦穂さん)



米村邦穂さん

今日は雨降り予報で人数も10人ぐらいと書いておりましたので、材料も前日に持ち込みました。ラフな格好で失礼します。

保養所の管理人をして34年目になります。

町内会副会長などいろいろ役をしてきましたが4月には終え、これからは自然系のものに注力します。

六甲山にアジサイを植える

懐かしいVTRを鑑賞

神戸の花であるアジサイの名所などを収録のビデオ。シーボルトが海外に、数が少なく幻のアジサイと言われている「シチダンカ」を紹介している。

六甲山のアジサイ名所案内
・六甲山ゴルフカンツリー
・新池遊園地・全山縦走路
・ケーブル付近



『日本植物図譜』 FLORA JAPONICA

また、六甲山の雨の酸性雨を測定した10年前のVTRも鑑賞した。2つのVTRを鑑賞して、六甲山のアジサイにかかる米村さんの粘り強いご努力に、参加者一同が敬服した。

六甲山にアジサイがきたのは?

六甲山のゴミは野生動物などを寄せつけないようにコンテナに入れられている。それが昭和48、49年頃、景観を損ねないように綺麗にしようということで六甲山にアジサイが植えられた。さらに、昭和50年には、『花と市民の協定』条例第1号として5年間で2万本のアジサイを植えることを約束。道路も改修され、その空き地を利用して花壇が作られた。

記念碑台前のツゲ池の「アジサイ園」では各種のアジサイを楽しむ事ができる。また、企業も環境事業の一環として参加しており、関西電力は春秋100株づつ植えている。

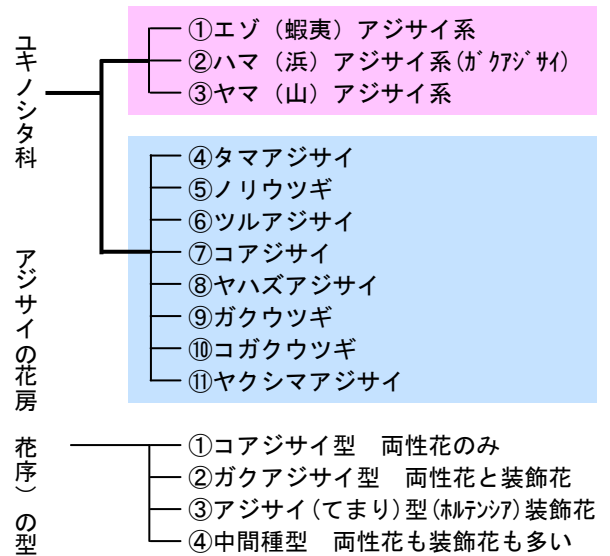
アジサイのいろいろについての解説

アジサイの原産地はどこ?

アジサイの殆どは鑑賞用とされているが栽培されているものは日本原産種である。

アジサイの本種は15種~16種で、園芸種は500種~1000種にも至るが残念なことに研究家が少なく。挙げるとすれば、山本武臣「日本アジサイ協会」。六甲山地は夏でも25℃~30℃までの気温で霧が多く適度な湿度等、アジサイの育つ条件に適している。

アジサイの家系図って何? (山本武臣説)



※ユキノシタ科...アジサイ属の仲間。Hydragea はギリシャ語のHydro(水)とAngeo(容器)の合字。

アジサイって何色?

青、それとも赤

アジサイは土中のアルミの吸収度によって花の色が変化(酸性...青色、アルカリ性...ピンク色)するが、それだけでなく色素の酵素も働き、日照、温度、湿度等の条件で複合される。



米村さん持参のアジサイ

米村美穂さんの研究記録にビックリ

米村さんの娘さんが、小学3年から中学3年（神戸市長賞受賞）までの計6年間、アジサイを観察記録。

アジサイの葉のつき方（互生から対生のアジサイの葉を発見したことや、輪生と4枚が出てきたこと）など研究して詳細に記している。



うちの庭のアジサイしらべ

夏休みの宿題ですが、本格的に研究し疑問点を徹底して調べ上げている。研究記録（小学校時代は模造紙、中学になると画用紙）は米村家の家宝のように大切に保存されている。

幻の花「シチダンカ」の挿し木実習(天挿し)

1. 枝は新しく伸びた枝を挿し木にしましょう。2節を残し、葉は丸みをつけて愛情を持って半分に切る。

(1枚ずつ葉を半分に切っていくのは根が無いので蒸散を少なくする為)

2. 水中に5分程つけて置く。

3. 土の中に挿す(鉢は苗にあった大きさのものを選ぶ)

<注意>

- ・土は赤玉土又は鹿沼土
- ・2週間程で枯れなければ成功。
- ・脇芽から芽が伸び、下の根も張って伸びる。
(動かさないように!)
- ・直射日光は避ける。
- ・翌年は倍の大きさの鉢に植え替えよう。



挿し木の手順

シチダンカの裏話も

長い間標本も実物もなかった「シチダンカ」は、六甲山小学校の荒木用務員が昭和34年、V字型の荒山のような六甲ケーブル沿線で見つかり、1株を持ち帰り校庭に植えた。それを、生物学会会長である室井さんが同定したのである。この荒木株は両性花が蕾のまま

落ちてしまうので種ができない。増殖は荒木株の最初の一株の挿し木からである。

荒木株で定着した「シチダンカ」は八重咲きの20種もの山アジサイの一つであるが、今まで荒木株以外に六甲山中で見つかった自生株がないことや、荒木種以外の山

アジサイの方がシーボルトの「シチダンカ」の図に似ていることなどから、荒木株が同定されたことには疑問も残る。しかし、何段にも咲くから“七”段花と名づけられたように非常に綺麗な花であるので、シチダンカ=六甲の名花として通っている。

◆配布資料：

- ・「アジサイの多様性を学ぶ」、「六甲山のアジサイ」
- ・六甲山の名花「シチダンカ」

六甲山のアジサイを育てる会 設立：1984年
〒657-0101 神戸市灘区六甲山町北六甲 631
TEL：078-891-0254 FAX：078-891-0207



原田さんが三世代家族で飛び入り参加

◆参加者：26名（順不同・敬称略）

米村 邦稔	阿部小夜子	山田 良雄	呉本 永昌
長谷川陽子	齊藤美代子	松本 憲子	室橋 雄三
柏木 貢	堂馬 英二	中野 一	藤井宏一郎
原田八重子	萩原真理子	原田 恵里	平沙 弘史
西谷 実	鈴木 武	戸田 清彦	尾崎 尚子
山西 一平	青木 光子	根岸 真理	北山健一郎
近藤 佳里	山内 邦子		

◆参加者の声

今回は挿し木実習に時間がかかり、懇親会が行えなかったのは残念でした。しかし、参加者26名中16名と多くの方々にアンケートを提出して頂きました。

1. 講演会について

- ・アジサイの多様性について知らないことが多く大変勉強になった。
- ・注意深く植物を観察していきたい。
- ・先生のアジサイへの想いが伝わってきた。

2. 自然保護センターについて

- ・静かで勉強しやすい。
- ・きれいに整理されている。
- ・何か興味のあることを開催して欲しい。
- ・いつも開放して欲しい。

3. 活用する会へのご意見・ご要望

- ・内容の濃い話を多くの人に紹介することが望まれる
- ・セミナーに参加することで六甲山が身近になった。